

全国に広がるHondaの高校生交通安全教育活動 連載:第3回

# 生徒の通学手段に合わせた交通安全教育を実施



このコーナーでは、ホンダが全国で展開している高校生交通安全教育を取り上げている。今回は、生徒の通学手段に応じた教育を実施した岡山県立笠岡工業高等学校（岡山県笠岡市）での事例を紹介する。

同校の生徒の多くは自転車通学であるが、遠距離で自転車通学が困難な生徒には原付通学が認められている。そうした生徒は1年生の夏休み以降に、自動車教習所で小型限定普通二輪免許を取得することが義務づけられている。同校生徒で交通指導を担っている小野雅彦教諭は「これは教習を通じて、生徒にバイクの正しい操作や安全運転技術を身につけてもらうためです。そのため、免許を取得するまでは、長距離でも自転車通学ということになります」という。「これまで交通安全教育に関しては、警察署による講話が中心でした。ホンダの交通安全教育は生徒全員が参加体験できるプログラムであることが魅力的です。さらに、原付と自転車の両方に対応してもらえると、原付と自転車の両方に対応してもらえると」と小野教諭は実施に至った背景を話す。

## 他車に迷惑をかけない運転を身につける

ホンダによる笠岡工業高校での高校生交通安全教育は9月12日に実施され、同校の原付通学者80名（1〜3年生）が参加した。指導は本田技研工業（株）安全運転普及本部および鈴鹿サーキット交通安全教育センターのインストラクターが担当した。

最初は日常点検について。ブレーキ、タイヤ、灯火類、燃料の4項目が日常点検では重要であることをインストラクターが説明し、それに従って生徒は自分の原付を点検していく。ブレーキの点検では、ブレーキレバーを握っていき、ブレーキランプが点灯する位置と、ブレーキが効き始める



6台が横一列で、そろってゴールに到着するという課題。どのようにすれば、全員の動きを合わせるためにはどのようにすべきか、生徒同士で話し合ってもら



6台1組で走行し、20m先のゴールに誰が一番遅く着くか競う

実技は低速走行。スタート地点に6台の原付が並ぶ。6台1組で、足着地させずに走行し20m先のゴールに誰が一番遅く着くか競ってもら。遅く走ろうと、速度を下げていくと、バランスが崩れて足を着いてしまう。また、コースの幅7mの中で6台が並走するため、1台がふらついて蛇行すると、他車への迷惑になる。そうしたことも考慮し、ふらつかないように走行するためには、どのような運転姿勢をとるべきか、生徒一人ひとりに考えてもらう。「低速でバランスをとるためには膝を開かないように注意することが重要です」とインストラクターがアドバイスした。



日常点検の必要性などをHondaのインストラクターが生徒に説明

位置があることを生徒に確認してもらう。ブレーキランプが点灯する位置がわかれば、後続車へ早めに減速や停止の合図ができ、追突事故防止につながる。インストラクターが解説した。

## 体験によって生徒の気づきを促す

原付教育と並行して、自転車通学者37名（1〜3年生）には自転車教育が行わ

体験によって、生徒の気づきを促す。原付教育と並行して、自転車通学者37名（1〜3年生）には自転車教育が行われ、体験を通じて、人への思いやりや事故から身を守る大切さを生徒が主体的に考えられようになっていく。

周囲の状況をよく観る運転を身につける。低速でのバランスが上手くとれるようになると、次は6台が低速で走行し、全員そろって20m先のゴールに到着するという課題。1回目はどのグループもそろわない。徐々にスタートからゴールまで全員が揃わず、ピタリそろって走行することができた。「皆さんは、他のバイクの動きをよく観たり、アクセルやブレーキをやさしく操作したりと、いろいろな工夫をされています。そうした工夫は実際に道路を走る時に役立ちます。「自分だけが良ければ、それで構わない」という運転は控えましょう。周囲の交通状況をよく観て、まわりの人々に気づかいてきてこそ交通社会人です」とインストラクターが締めくくりに、原付教育の実技は終了した。

ホンダは生徒の通学手段などに合わせて、適切な交通安全教育ができるよう、様々なプログラムを用意している。今回紹介した原付教育や自転車教育の実技においては、体験を通して、人への思いやりや事故から身を守る大切さを生徒が主体的に考えられようになっていく。



自転車教育の「8の字体験走行」。直径10mの円をつなげた8の字コースを自転車20台で走行。8の字の交差する箇所ではお互いの動きをよく観て譲り合わなければスムーズに走れないことを生徒に気づいてもらう



実技とともに行われた座学では、交通ルールやマナーを守ることが事故防止につながることを生徒に理解してもら



「飛び出し体験」では携帯電話を見ながら走行すると、クルマのカゲから飛び出す歩行者の発見が遅れることを生徒自身が体験